



ヒューズ付開閉器を正しくお使い頂くためにぜひこの説明書をお読みください。

1. 機種および定格の選定に際して

(1) ヒューズ付開閉器は使用条件によって低減率を考慮して下さい。

ヒューズ付開閉器は定格電流の70%以下の負荷電流でご使用になるのが一般的な慣習ですが、周囲温度、ヒューズの種類によっては更に低減率を小さくする必要があります。

●ヒューズ付開閉器の望ましい低減率

開閉器の周囲温度		ヒューズの種類				
周囲温度は開閉器の周囲の空気温度で数時間単位での最大想定温度として、その都度設定して下さい。 一般的には次のように設定できます。		つめ付低温ヒューズ つめ付鉛ヒューズ  ●外見上識別するのは困難です。包装箱などをご確認の上ご使用ください。	打抜垂鉛ヒューズ  ●打抜垂鉛ヒューズはつめ部と可溶体部が同一材質になっています。			
		つめ付低温ヒューズ	つめ付鉛ヒューズ	打抜垂鉛ヒューズ		
●屋内使用	露出取り付け	エヤコンあり—25℃	30℃以下	100%以下	90%以下	80%以下
		エヤコンなし—30℃				
●屋外使用	埋込取り付け	エヤコンあり—40℃	40℃以下	90%以下	80%以下	70%以下
		エヤコンなし—45℃				
●加熱源の近傍での使用	露出取り付け	45℃	60℃以下	70%以下	60%以下	50%以下
	盤内取り付け	60℃				
●加熱源の近傍での使用		実測によること	60℃超過	使用しないこと		

カバー付スイッチは電動機などの手元開閉器としては使用できません。

カバー付スイッチは開閉頻度のすくない、主幹・分岐開閉器として使用されることを前提に設計・製造されていますので、手元開閉器として、頻繁に操作する場所、また、電動機など始動電流の大きな負荷の直入始動を行う場所へ使用することはできません。

電動機回路での直入手元開閉器としてご使用になる場合は定格適用電動機容量 (kw表示) が表示されている配電函をご使用ください。

(3) 普通形の開閉器は特殊な場所での使用はできません。

次のような場所でご使用になる場合は特殊形のものを選定されるか、また、適当な保護構造をもった箱内に設置してご使用ください。

- 雨露のかかる場所
- 湿気、水気のある場所
- 粉塵の多い場所
- 腐蝕性ガスのある場所
- 塩害の考えられる場所
- その他特殊場所

カバー付ナイフスイッチ・配電函の点検項目

点検項目	注 意 事 項	点検時期
使用環境	<ul style="list-style-type: none"> 使用場所は、周囲温度（スイッチの周囲20～50cmのところ）、通風、塵埃、油などの飛散、ふん囲気ガスなどは、工事の頭初と異なることが多い。使用環境の変化に注意。とくに周囲温度、通風は見すごしやすい。 	定期点検時
適性ヒューズと通電電流	<ul style="list-style-type: none"> 負荷に対応した適性なヒューズを使用。 取り付けピッチの異なるヒューズやヒューズの2枚重ね使用は危険である。 負荷の増設などにより、使用電流が増えていないか。 打抜きヒューズ（ヒューズの爪が銅でないもの）は、使用中にネジがゆるむので使用しない。 銅爪低温ヒューズを使用する。 	定期点検時
端子のゆるみと増締	<ul style="list-style-type: none"> 工事終了後に電線端子、ヒューズ端子の増し締めを行なう。 使用后1ヶ月程度後に端子の増し締めを行なう。 夏に向う5～6月頃に端子の増し締めを行なう。（一番多いのがこの事故である）。 	工事終了後 定期点検時 5～6月頃
接触部の清掃と給油	<ul style="list-style-type: none"> 使用環境や使用条件にもよるが、接触部の発熱と塵埃などにより、接触部に塗布してあるグリスが蒸発・変質するので、ハンドル操作が重くなったときは、塵埃を拭き取り接触部に給油する。 接触部の調整は非常に難しいので、変形しないようによく注意する。（変形したスイッチは取り換える。） メインスイッチ、送りスイッチなどの無開閉操作のスイッチでも、接触面の劣化があるので、1ヶ月に1回は開閉操作をくり返し接触部の状況を確認する。 接触部に塗る油は、白色ワセリン又は一般用機械グリス、あるいはマシン油（上質なものを）を適量塗って10回ほどくり返し操作を行ない、余分な油や、他へ付いた油をきれいに拭きとる。 	定期点検時 5～6月頃
メカ部の清掃と給油	<ul style="list-style-type: none"> 鉄箱スイッチのメカ部は、定期点検時に給油する。 鉄ケースで錆のあるところは、ペンキなど塗り防錆をする。内部の錆は絶縁不良の原因となる。 	定期点検時
ヒューズの熔断と短絡	<ul style="list-style-type: none"> ヒューズが過電流で熔断したときは、スイッチのヒューズ取り付け部の周囲に付いたヒューズ粒をきれいに拭きとり清掃する。 短絡したときは、スイッチを取り換える必要がある。（応急処置；ヒューズ部をきれいに拭きとり清掃後、メガー測定0.2～0.5MΩ以上なら、取り換え準備期間は使用可能）。 	ヒューズ熔断時 定期点検時
カバー及びヒューズカバーの装着	<ul style="list-style-type: none"> カバー付ナイフスイッチのカバーは完全に装着して使用（充電部露出使用の禁止）。 カバー付ナイフスイッチの下カバーが完全に閉じていないと、短絡時に下カバーが開き事故となり危険（火傷などすることがある）。 鉄箱スイッチのヒューズカバーは完全に装着していないと短絡事故となり危険。 	定期点検時 ヒューズ熔断時 随時
接触部の異状消耗	<ul style="list-style-type: none"> 接触面が異状消耗すると過熱事故の原因となるので取り換える必要がある。（応急処置；接触異状のものでも接触部に給油して開閉操作をくり返せば取り換え準備期間は使えることもある）。 	定期点検時 随時
異状過熱	<ul style="list-style-type: none"> 過熱したスイッチは、手入をしてもバネ性などは元に戻ることがないので、このまま使用すると、火災に至ることもあり、スイッチを取り換える必要がある。 	定期点検時 随時

ご注意 点検時には「感電など危険防止」のため、電気のきていないことを確認のうえ行なって下さい。